

## 私、総合診療医と名乗っていいですか？

町立南幌病院 山内 純

あさぶ・ハート内科クリニック 福島新先生からエッセイのバトンを頂きました。福島先生には、10年以上前に市立稚内病院に勤務していた時から現在まで、家族ぐるみでお付き合いさせていただいています。

私は南空知の長沼町出身で、2004年（平成16年）に信州大学医学部を卒業しました。平成16年は臨床研修制度の開始年度で、2年間の初期臨床研修を北大病院で行いました。その後、北大第3内科（現：消化器内科）に入局し関連病院で計6年間勤務し、2012年（平成24年）から江別市立病院内科に所属し、2014年（平成26年）1月から現在に至るまで、町立南幌病院に勤務しています。

現在の私の仕事内容を格好良く表現すると“総合診療医として地域医療に従事している”となります。ですが、小児科の診療を行っていないことと、私は総合診療の専門のトレーニングを受けていないので、総合診療医と名乗るのは恐れ多く感じ“内科以外もみる内科医”と名乗って仕事をしています。夢は、いつの日か「私は総合診療医として地域医療に情熱を燃やしています！」と自信を持って名乗れるようになることです。

南幌町は南空知に位置し、町内にある医療機関は当院（病床数：80床）と内科系の19床を有するクリニックの2つですので、総合診療のニーズは高い環境です。一方で、自家用車あるいは路線バスで20～40分ほどで長沼町・北広島市・江別市・札幌市厚別区の医療機関にアクセスでき、比較的容易に（総合診療医以外の）専門医へ受診が可能でもあります。この程よい距離感が私にとってはぴったりで、住民の方にとっては受けられる医療の幅が広がりますし、また私にとってもコンサルト後の専門医からのお返事からたくさんのことを学ばせていただくことができ、ありがたい環境です。

2020年（令和2年）1月で、この地に来て丸6年が経ちました。時間が経てば経つほど、住民の方と関われば関わるほど、仕事で得られるやりがいや喜びが大きくなっていると感じます。例えば、当院に赴任した頃は外来で1ヵ月に1回お会いして薬を処方するだけだった“脂質異常症・高血圧症を持つ75歳の女性”は、この6年間にさまざまな健康問題に関わらせていただいたり、時に雑談をさせて



昨年からついに、亡くなった祖父母が大好きだった家庭菜園を始めることができました。思い通りにならない天気や気温と折り合いを付けながら大地の恵みを頂く喜びは格別です。そしていつも心の支えになってくれている妻と2人の子どもに心から感謝。

もらうことを通して現在は“自宅から10分かけて自転車で病院に通院しており、趣味は漬物作りとフラダンス。2年前にご主人を前立腺癌でお看取りさせてもらってから、一時期気持ちが落ち込んだもののフラダンスを始めてから元気に過ごしている鈴木さん”に変わっていきました。6年間、このようなありがたい出会いと時間の積み重ねの機会を数え切れないくらい頂くことができました。地域の方々と関わり、そして積み重なった関係性の中で仕事ができることを、この上なく幸せなことと感じています。

今年の目標は当院が充実した訪問診療を提供できる体制を構築することです。当院は定期的な訪問診療は行っていますが、病状変化時の往診や、時間外往診に対応することができていません。24時間往診が可能な在宅療養支援病院となれば、住民の方々に安心して自宅で過ごす選択肢を提示することができ、そしてまた新しい出会いと時間の積み重ねの機会をいただけるだろうと今から期待に胸を膨らませています。

今回のリレーエッセイは、隣町の由仁町で在宅医療のパイオニアとして夢に向かって邁進されている、敬愛する由仁町立診療所の島田啓志先生にバトンを渡させてもらいます。

※文中の鈴木さんは仮名で、具体的な個人情報も支障がない範囲で変更しています。